

# 環境創造センター福島支所において実施した

# 全域の土壤中ストロンチウム90・プルトニウム濃度調査

福島県 ○前川 晓洋、佐藤 晓久、佐々 貞義、橋本 晃佑、羽田 浩樹

環境創造センター福島支所では、事故前から県内全域における土壤中ストロンチウム90及びプルトニウム濃度を継続的に調査している。今回はこれらの長期的な分布の推移を把握するため、2017-2019年度及び2020-2022年度の調査結果をまとめた。県内39地点の土壤について調査を実施した結果、事故前の2005年度の調査結果と同程度であったことから、原発事故による影響は確認されなかった。

## 背景

ストロンチウム90・プルトニウムの測定には高度な技術が必要

プルトニウム測定には核燃料物質使用許可も必要

これらの核種の事故後の継続的なデータは少ない

環境創造センター福島支所：1996年4月業務開始

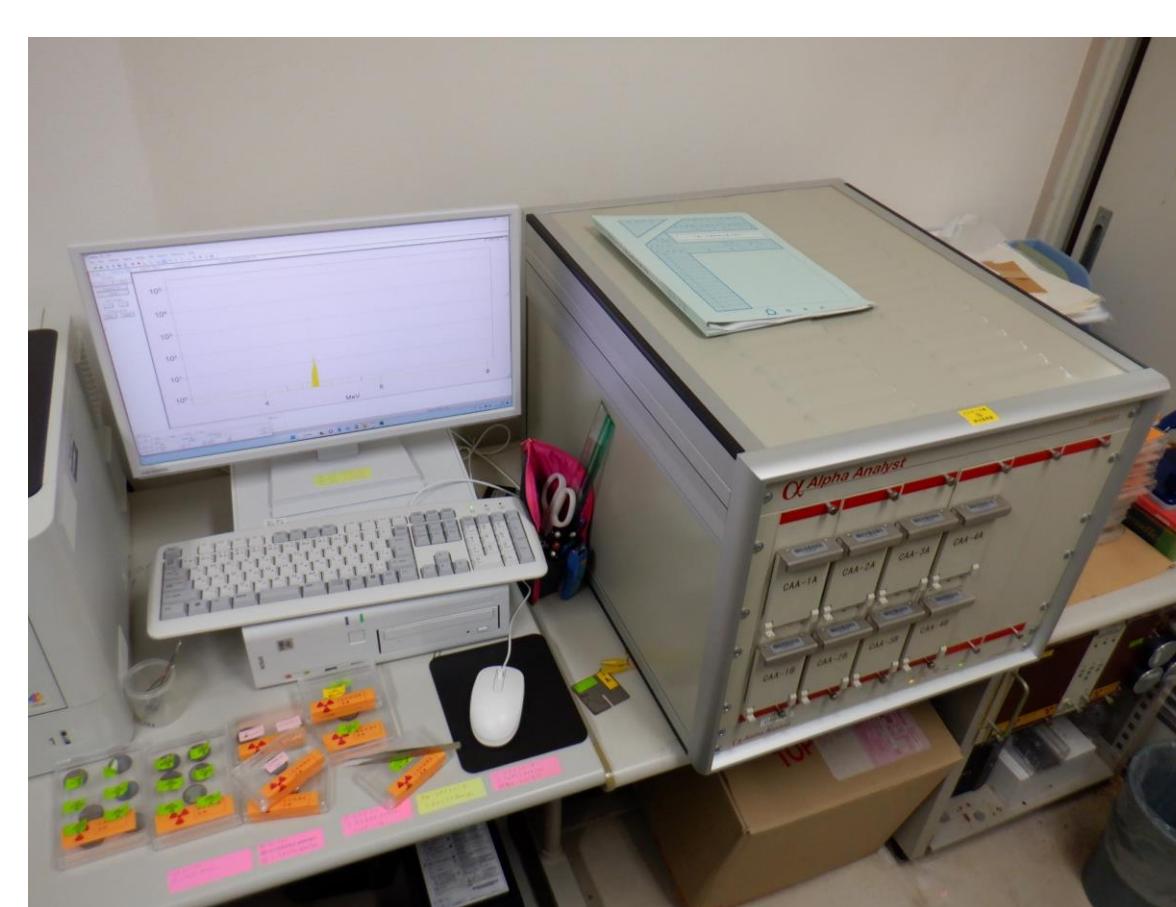
県内で唯一プルトニウム分析が可能な公的機関



# 土壤採取

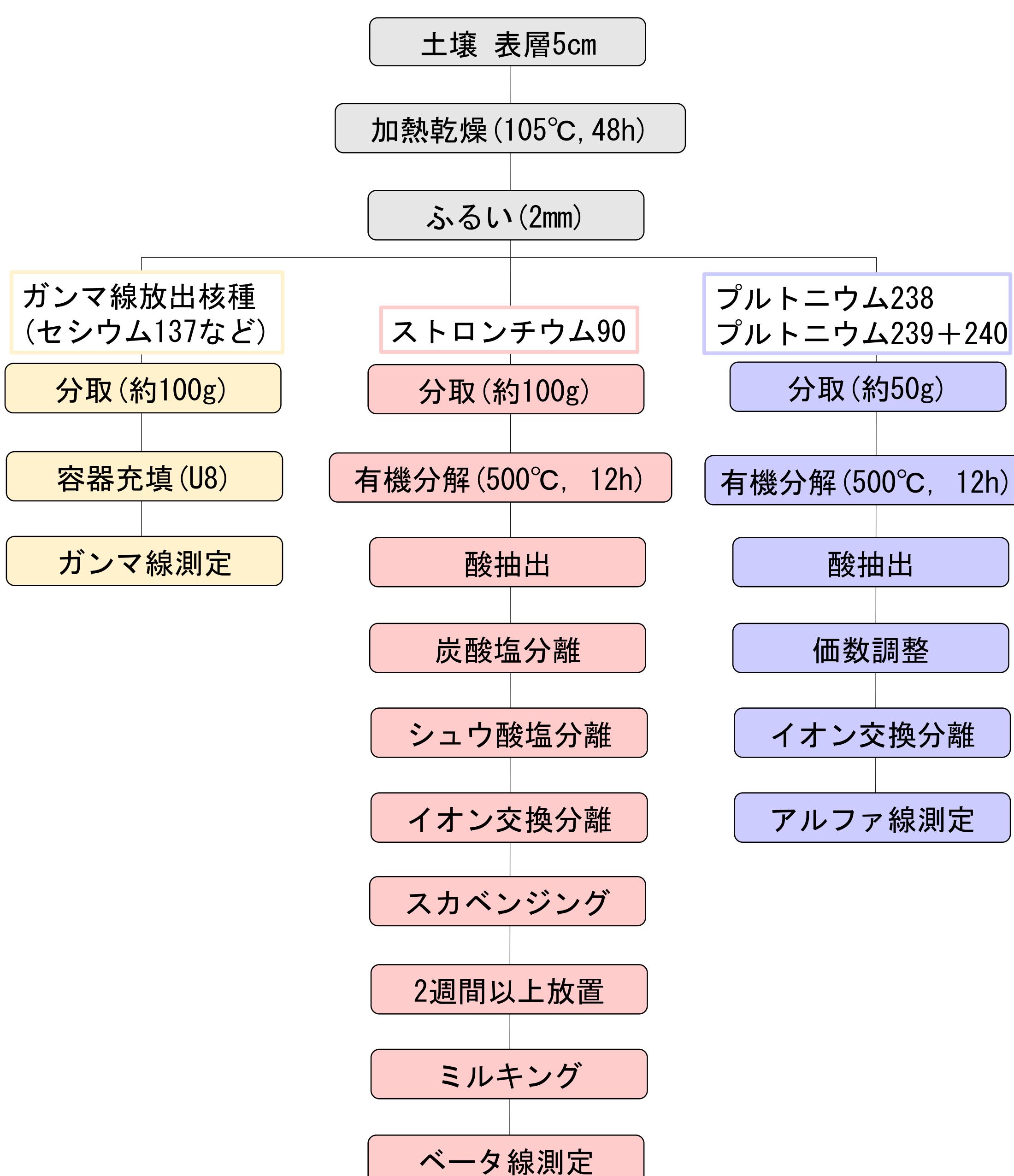


# ストロンチウム90測定

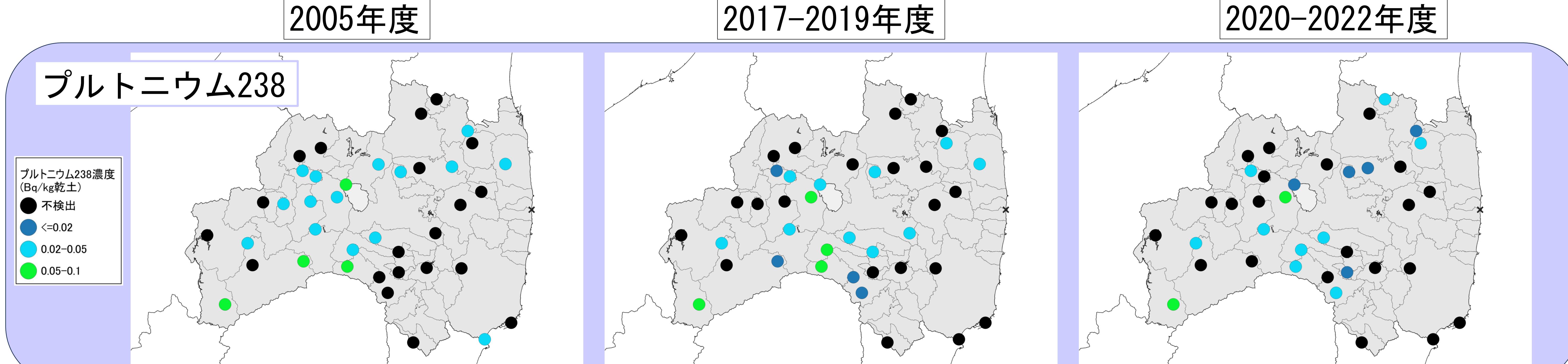
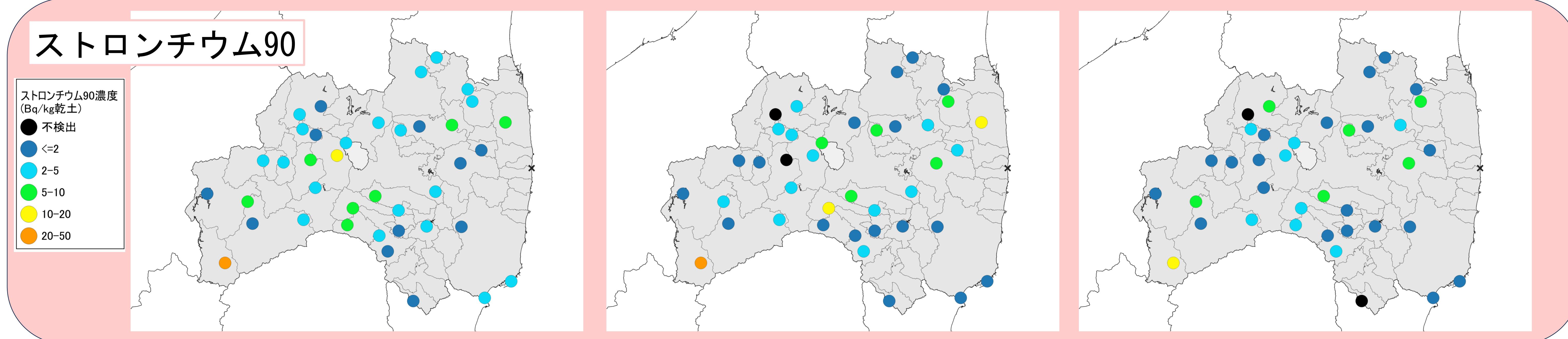


# プルトニウム測定

# 方法



## 結果と考察



- ・事故前（2005年度）の調査結果は、主に大気圏内核実験の影響を反映したものと考えられる。
  - ・2017-2022年度の調査結果は事故前と同程度であり、原発事故影響は確認されなかった。
  - ・IAEA-TECDOC-1162の手法による50年間積算被ばく線量の最大値は、ストロンチウム90が0.025 mSv、プルトニウム238が0.024 mSv、プルトニウム239+240が1.3 mSvであった。